

様式2 <b>令和5年度 清瀬市立芝山小学校 学校評価表</b>	
<b>学校教育目標</b>	公教育に携わる教職員としての職責を自覚し、一人一人が元気に輝き、確かな学力と豊かな心をもった自立する児童の育成を図るとともに、健康で安全な教育環境を整え、保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。
<b>目指す学校像(ビジョン)</b>	●自ら課題を見付け、自ら課題を解決していく力=自学力 ●他者とかかわる力=かかわり力 ●心身ともに健康に過ごす力=健康力
【目指す学校像】 子供の安全・安心を保障し、どの子にも居場所がある楽しい学校【安心】 保護者が安心して我が子を預けられ、保護者・地域とコミュニケーションを大切にできる学校【信頼】 子供と共に学び、常にプラス思考で、教職員の専門性が発揮できる学校【充実】	①体育科等における授業改善(校内研究の推進)、食育、保健学習の充実 ②清瀬市との連携した取組(図書館を使った調べるコンクールへの参加、石田波郷俳句大会への参加、赤ちゃんのチカラプロジェクトの実施、認知症サポーター養成講座の実施) ③低・中学年の読み聞かせや図書館活動の充実等の全校読書活動の充実 ④特別支援教室(さきり教室)と担任との連携による特別支援教育の充実 ⑤全校縦割りグループを生かした学年交流の取組 ⑥学校支援本部を中核とした保護者・地域との連携と開かれた学校の推進
【目指す児童・生徒像】よく考え、それをやり抜く子 より明るく、みんなと仲良くできる子 そして強く、心身ともに健康な子	
【目指す教師像】職責を自覚し、個に応じた手立てをもち、他者からの助言を謙遜に学び、協働する教師	
<b>前年度までの学校経営上の成果と課題</b>	
・昨年度は、言語能力の育成を図るための研究授業を行うとともに、読書の励行、俳句の創作、音読・暗誦による読解力の向上、国語辞典の積極的な活用など、言語活動の充実に取り組んできた結果、児童の言語への関心が高まり、理解力や表現力の向上が見られるようになってきた。また、昨年度は、生活科・総合的な学習の時間、各教科等を通して、自ら課題を見付け、自ら課題を解決していく児童の育成(自学力の向上)につながる授業改善の視点を明らかにしてきた。 ・今年度は、体力の向上等「健康力」に焦点を当て、体育科等における授業改善(校内研究の推進)、食育、保健学習の充実に務め、「心身ともに健康に過ごす力」を目指す。	

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策	
		評価 取組指標 成果指標	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策	
確かな学力の向上	○学習端末の活用、学校図書館等の活用を推進し、学力の定着度を客観的に測定し、適切な評価を実施する。	3	4	○算数科では、東京ベーシックドリルの診断テストを活用して一人一人の理解度を確認した。今年度も、カリキュラムの工夫として、『4年生の特別少人数指導「フックヤム」』を年間4回実施し、基礎基本の確実な定着を図った。 ○中学年以上では、学習端末を活用して、児童同士の考えを共有したり、調べ学習で活用したりと活用の幅が広がっている。また、学校図書館も適切に活用し、図書館を使った調べる学習コンクールに出品する児童も増えてきている。	・4年生で実施している「ベーシックタイム」は、通常の少人数指導(2学級を3展開)をさらに細分化した指導として行うことで、成果が上がっていることを考えると、今後も継続して行ってほしい。	・確かな学力の向上のため、芝山小スタンダードを実施し、基礎的・基本的な学習の確実な定着を図るための取組を継続していく。 ・学習端末の活用、図書館の活用等、家庭、教育委員会と連携しながら、今後も効果的な活用をしていく。
	○宿題や家庭学習の提示の仕方を工夫し、自ら学習に取り組む態度を育成する。	3	3	○宿題は全学級で毎日取り組めるようにしている。その取り組み方やチェック方法については、学年間で多少の差が見られる。自学力を育てるための自主学習は中学年以上で積極的に取り組み、児童からは91.3%の肯定的回答があった。保護者からは、約75%の肯定的回答があり、学年に応じた課題の量や取り組み方について、ご意見をいただいているので、学校として情報を共有するとともに、さらに工夫していきたい。	・様々な個性、様々な子供の実態があることを受けて、手だてを講じていることが、学力の向上につながっている。児童のアンケート結果から、「まだまだ」と感じている子供がいるならば、そのことをプラス(+))と考えて改善し、前を見据えていくことにつながることで大切である。	・中学年以上では、自主学習に積極的に努めている。低学年を含め、宿題の在り方や自主学習についても、学校として情報を共有して、さらに積極的に取り組んでいく。
豊かな心の育成	○毎学期にふれあいアンケートやふりかえりアンケートを実施し、その分析結果を活用していじめの早期発見に繋げる。	3	3	○今年度も、年3回のふれあいアンケートを実施して、いじめに限らず、児童の悩み事や困り事について、未然防止と早期発見に努めた。児童は約88%の肯定的回答があったものの、保護者からは「分からない」という回答が21.1%と昨年度からの改善が見られなかったことは、大きな課題である。さらに学校が取り組んでいる内容について、情報発信・啓発の工夫が必要である。	・児童アンケートの肯定的な回答が90%近い結果は素晴らしいことだと思ふ。一方、保護者アンケートの「わからない」という回答が21%である。学校からの情報の発信や啓発にその要因があるとするならば、今後も工夫していくことで理解につながる必要がある。	・次年度も年3回のふれあい月間で、ふれあいアンケートや相談週間の実施していく。保護者に規範意識の向上やいじめ対応について、特別支援教育について理解していただけるよう、学校からのたよりやホームページ等で発信していく。
	○毎学期の挨拶運動の実施とふれあい班活動を計画的に実施する。	3	4	○あいさつ運動は、代表委員会の児童を中心に計画通り行うことができた。活動方法を工夫するなど、主体的に活動できたことは、全校児童の意識付けにつながった。ふれあい班活動は、計画通りに実施することができ、異学年交流の充実が、互いにかかわる力の向上につながったことは、児童アンケートの約90%の肯定的回答からもうかがえた。	・地域で子供たちに挨拶をする、としっかりと挨拶が返ってくる。自分からすすんで挨拶をしてくれる子供たちもいて、学校での取組や日々の指導が行き届いていると感じる。	・校内だけでなく、地域の方から挨拶が返ってくるということで、よい意見を得た。さらに、多くの児童が校内外で進んで挨拶ができるよう、継続的に指導していく。 ・ふれあい班活動を通して異学年交流の場を増やしていく。
健やかな体の育成	○安全点検、安全指導、避難訓練を工夫・改善し、計画的に実施する。	3	4	○安全点検は計画的に行い、修理・改善が必要な箇所について迅速に対応できたことは、学校生活の安全につながった。避難訓練は様々な場面を想定し、全校児童が校庭に集まって実施した。消防署との連携では、「煙体験」や「起震車体験」を実施したり、消防署の方々に避難訓練の様子を見ていただいたりした。児童に直接話をしていただき、児童の避難訓練に対する集中力が高まったことで、児童・保護者ともに90%以上の肯定的な回答があるなど、よい評価につながった。	・児童、保護者ともにアンケート結果の肯定的な回答が90%以上であることは、とても大切なことで、学校の努力が伺える。子供たちが生活する学校が安全な環境であることが、安心につながる。	・日々の安全指導、毎月の避難訓練等を通して、児童に指導していくとともに、児童が安全に生活できるよう環境整備に努めていく。
	○体育科等の学習や休み時間を通して、児童の健康・安全への意識を高め、体力の向上を図る。	3	4	○健康力の向上を育成の柱として、「関わり合いを通して、運動する楽しさを実感できる体育学習」を研究主題として、運動や健康についての課題解決に向けて、対話的な学びを促すことで運動の楽しさや喜びにつなげることができた。しかし、ほぼ3年間のコロナ禍において、児童の体力は明らかに低下傾向にある。体力テストの結果分析も客観的データとして、個々の体力や運動に取り組む姿勢について、児童の実態を分析し、授業や業間の取組を意図的に計画的に行うことで健康体力の向上につなげた。	・児童の体力については、コロナ禍の影響が少なからずある。運動や遊びを行う環境や機会が変化してきているからこそ、学校での取組をぜひ継続して行ってほしい。また、継続して取り組む種目を決めて行うこともよいと思う。	・次年度も引き続き、「健康力の向上」を育成の柱として取り組む。体育授業の充実と運動遊びの日常化に加え、保健・食育の分野でも実践を積み重ねていき、児童自らが主体的に健康な生活について意識できるようにする。
特別支援教育の充実	○さきり担任と学級担任との連携を強化することによって、個に応じたきめ細かい指導の充実を図る。	2	3	○特別支援教室の担任と全教員の情報交換は職員夕会(生活指導)の時に行った。全教職員で情報共有することで、個に応じた指導について細密に対応できた。学級担任との定期的な情報交換は、休み時間や放課後など、時間短縮は十分ではないものの、特別支援コーナーが積極的に情報共有するなど、迅速な対応ができた。特別支援教育について、学校からの便りやHPを活用して周知したことで保護者の理解が深まった。	・教員同士が子供たちの様子など、大切なことを普段から話していることがとても大事である。個別の指導計画に基づく、なだらかなつながりの中に特別支援教育がある。取組指標が低い結果となっているが、先生方が日々きめ細かく実践していることに、ぜひ自信をもってこれからも取り組んでほしい。	・特別支援教育の充実に取り組んでいる、という設問にわからないと回答している保護者が多い。特別支援教室に通っている保護者だけでなく、全ての保護者に特別支援教育について理解していただけるよう、学校からのたよりやホームページ等で発信していく。
	○OSCたより、SCと5年生全員面接、各相談機関の周知、個人面談や相談週間実施等、児童・保護者の相談できる環境を整えていく。	3	4	○年間10回を超える特別支援校内委員会では組織的計画的に実施することができ、関係者で共通理解を図った。教員が日々児童の話を聞くことや、随時実施している保護者との面談、SCによる5年生全員面接及び年間を通じた保護者面談の実施など、相談できる環境づくりに努めたことで、児童・保護者からは、86%以上の肯定的な回答があった。アセス(学校環境適応尺度)を年2回実施し、学校全体の児童理解及び学級経営・教科経営に生かすことができた。	・児童、保護者アンケートの肯定的な回答が86%と高いことから、安心感や自己肯定感につながっていることがわかる。このことは、普段の挨拶にもつながる。	・今後ともスクールカウンセラー、関係機関と連携して、児童、保護者の相談できる環境を整えていく。不登校児童に対応するため、週に1回程度、別室登校指導を行う「ひまわりルーム」を開設し、不登校解消に向けて取り組んでいく。
本校の特色	○高学年児童、代表委員会を中心に全校で、開校70周年記念式典や記念集会に主体的に関わるよう指導の充実を図る。	3	4	○開校70周年記念行事について、児童の意欲的な参加については、90%以上の肯定的な回答があった。全学年で計画に取り組み、記念集会や記念式典などを通して、学校の歴史を学びとともに、多くの方々とのお出でがあったことは、学校を大切に思う心情を育むことにつながった。保護者の方々からも、たくさんの協力・支援をいただきながら、活動の目的や内容を伝えることで、保護者の肯定的な回答も84%と、高い割合となった。	・開校70周年記念式典での、子供たちの態度は、落ち着いていてとても立派だった。学校での安心できる環境が子供たちの態度につながっていると思う。	・保護者からは、子供がさらに地域の方たちと交流するとよいという声もある。今後、授業や行事等で子供たちが、保護者・地域の方々と交流し、保護者・地域に開かれた学校を目指した教育活動に取り組んでいく。
	○学校だより、学年だよりの他、学校ホームページ、学級だより、メール配信等で、学校からの情報を発信していく。	2	4	○今年度は、これまでのメール配信システムに加え、新たな情報発信ツールの運用を開始したことで、緊急な予定変更を含めて、教育活動について迅速な情報発信をおこなうことができた。関係者の方々には、制限を設けることなく来校していただく機会が増え、教育活動の理解・啓発につなげることができた。また、児童の様子については、ホームページの「校長室より」を通して伝えており、保護者からは、91%の肯定的な回答があった。今後もホームページや各学年・学級だよりを活用して、児童の様子を伝えることについて充実させていきたい。	・情報発信には、いろいろな方法がある。日頃の児童や保護者とのコミュニケーションを含め、先生方一人一人が現在実践していることに自信をもって取り組んでほしい。	・ホームページや学年、学級からのたよりの他に、連絡帳や電話、タブレットを活用した連絡など、様々な方法があるので、それらを活用して情報発信することで、教育活動の理解につなげていく。